



楓

発行

三好高校同窓会事務局
徳島県三好市池田町
州津大深田720

TEL 0883-72-0805

責任者

中 瀧 清 文

印刷社 新 芳 社

新たな母校の創造を



三好高校同窓会会長

中 瀧 清 文

今年の夏は猛暑でしたが、豊作の秋がやってきました。

同窓会員の皆様方も、お元気で活躍のことと拝察致します。

日頃は、母校や同窓会のため、ご支援ご協力を戴き、謹んで感謝申し上げます。

一般の同窓会近畿支部総会では、永らくお世話頂いた、山中様が相談役に、又岡田様・井上様が顧問に就任され、上浦文雄会長、宮内事務局長さんほかの新役員がスタートされました。又徳島支部では大西会長様始め同志のご尽力で、井口さんの博士号取得祝賀会が盛大に挙行されました。全国で同窓生の皆様のご活躍され母校の名譽を高めて戴いております。本当に嬉しい限りです。

三高校との再編協議会に、活性化委員会の協議を戴き参加することとなりました。森林環境や生物資源、又食品バイオ等、本校の伝統を進化発展させながら、時代の流れや少子

化の中、新しく順応した本校の姿を創造してゆかねばなりません。

還暦時に、母校再生の重大局面となりました。6千名同窓生皆様方の英知とご支援を賜り、新しい時代に適応した後輩が育まれる、母校創造に、変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます。同窓会紙「楓」が皆様の絆や交流の場となつて母校の再生に繋がりますよう祈念します。



● 通常総会開催のお知らせ ●

日時 平成十九年十一月十二日(月)

午後三時 開会

場所 本校 槻会館

当日は学校楓祭が開催されます。

会員皆様の御出席をお待ち致しております。

「大地とともに心を耕す」



徳島県立三好高等学校長

瀬部 昌秀

三好高等学校同窓会だより「楓」第十号が発刊されますことに心からお慶びを申し上げます。

同窓会の皆様には、本校の発展のために物心両面にわたって御支援を賜り、厚くお礼申し上げます。昨年度は、創立六十周年の記念行事等もあり何かとお世話になりありがとうございました。本校生徒教職員一同、同窓会の皆様の思いを大切に、母校の発展のために努力致したいと思っております。創立六十年の伝統を引き継ぎ新たな出発をするため、本年度も、オンラインワンハイスクールパワーアップ事業を県教育委員会から指定を受け、教育の充実と学校活性化に取り組んでいます。また、特色ある教

育内容として三者連携（総合技術支援センター、西部総合県民局、三好

高校）による「ホンシメジの培養試験」があります。地域農業の活性化のために成功させたい試験研究であります。一方で、環境教育にも取り組んでいます。「バイオエタノール」の製造試験、「菜種栽培から食用油の生産」「ダチョウの飼育試験」「サギソウの増殖試験と自然保護」などがあります。ビジネス類の教育も充実しており情報教育では、昨年度に引き続き初級システムアドミニストレーター試験に挑戦し合格しました。商業の各種の検定を受検しよい成績を収め、就職に進学につなげていきます。

三好高校は、地域に根ざした、地域に愛される学校であります。このことを大切にする地域連携を数多く行っております。本校グラウンドでの地域体育祭への協力、地域の催し物への販売品や生徒作品の出品出展、ボランティア参加など地域とのつながりを大切にしています。その結果、地域から高く評価されています。

終わりに高校教育改革についてですが、昨年度は、同窓生の皆様の母校を愛する願いを、県教委育委員会まで署名活動の形で届けていただき誠にありがとうございました。現在、高校教育改革について三好市・東みよし町地域協議会におきまして協議をいたしているところであります。

三好高校教職員一同、精一杯同窓会の皆様のご期待に添えるよう努力いたす覚悟でございます。今後とも御支援をいただきますよう重ねてお願いを申し上げます。最後になりましたが、同窓会の皆様のご健勝ご多幸をお祈り申し上げます。同窓会だより発刊のお祝いのお言葉といたします。



農業に活路を



昭和三十九年度卒業 近藤 吉正

母校三好高校も創立六十年を迎えました。私と同じく六十歳を迎え、今、三好農林校生時代をなつかしく思い出しています。

昭和三十七年に入学、四十年に卒業しましたが、その間、三十九年は、東京オリンピックの開催された年で、その一年はオリンピック一色の年でもあり、経済発展のさなか、農業も盛んで、井川町井内の山の頂上まで続く段々畑も、葉たばこで埋めつくされ、一時期百町歩を越えて生産されておりました。農家の長男は三好農林に入学し、卒業して家を継ぐのがあたりまえの時代でした。私もその例にもれず卒業と同時に家を継ぎ、葉たばこや、野菜、林業に精を出し、農業に専念しておりました。しかし、時代と共に少子化が進み若い人達が都会に出て行くにつれ農業を継続する力が段々となくなる人が多くなり、畑や田も杉や桧の林に変わってしまいました。故郷の荒廃に半ばあきらめかけておりましたが、平成二年に農地開発の話が持ちあがり、標高九

〇〇メートルの山に十町歩の農地を造成し、五人の仲間と共に入植し農業に活路を見出し頑張ってきました。平成十三年に長男も共に農業を始めた。平成年に長男も共に農業を始めた。高地を利用した花苗やトマト、野菜の生産に取り組み専業農家として、消費者のニーズに答えられる、消費者の声を生産に生かされる農業を目指して頑張っております。

農産物の半分以上を輸入に頼らなければならぬ現在、やり方次第で農業を自分の職業としてやって行ける時代になったような気がします。在校生の皆様も今は都会に目が向いているかも知れませんが、学校での勉強を生かし農業にもう少し目を向けて、農業を始める人が一人でも出来る事を願っております。

母校も高校再編で大きな岐路に立っています。一日も早くその問題を解決し、母校の益々の発展を願うとともに、在校生や同窓生の皆様の御健康と御活躍をお祈り申し上げます。

「本校卒業生と県西産業」



元校長 水野 正則

昭和六十三年から三年間、新米校長としてお世話になりました。赴任して一ヶ月の頃、県議会文教厚生委員会の視察がありました。さて、学校経営の説明をどうするか。思いついたのは、県教委時代の手法。各科各課に「現状と課題」というテーマでレポートを出してもらい、猛勉強

で大変でしたが、早く学校の実状や問題点をつかむのに役立った。林業科の思い出ですが、長い間在籍されたベテランの先生方が退職されて若い先生ばかりでした。早く研修を重ねてもらわねばという面、実習する林業機械が古くなりすぎている面、木材価格が下落し、林業界は四苦八苦する中、生徒にも意欲低下がみられる面等課題山積。県農林水産部の若手林業後継者育成事業に組み入れてもらって、今の時代にマッチした実習ができた。枝打ちロボ

ットが入ったのも、この事業。県庁職員を目指して、若い先生方や生徒が頑張る、ある年など、六人くらい合格した。私（元は英語教師）自身

今、林業研究グループの世話人をしていて、山の現場で、当時の生徒が今や中堅職員として頑張っているのを見て、たのしく思う次第。

次に農業科ですが、私自身、今、一日の中で最も多く時間を使うのが農業。毎日のように農家の人々と顔をあわし、三好高校卒業生と一緒に。米麦づくりをしておれば、何とかなる時代は昔の話。これからも三好高校卒業生がもつともっと前に出て、農業を引っ張ってほしいところです。

食品製造科ですが、昔からよく言われることに、徳島は材料を生産するだけ、香川は、これに価値を付加して販売するのが上手と。今は少しですが、この業界へも進出する卒業生も出て来たのに、立派だと敬服するところですよ。

最後になりましたが、卒業生も多く住み、また三好高校へ通学する生徒をよく見る地域に住む身、皆さんのご活躍とご健勝を祈念します。

三好高校同窓会 活動報告について

井口光二さん（学術）学位取得祝賀会

三好高校同窓会徳島支部幹事長の井口光二さん（昭和四十八年度卒、畜産科）の学術取得記念祝賀会を平成十九年三月四日に徳島市の昴宿よしのにて盛大に挙行され、来賓者や同窓会本部役員、同窓会徳島支部の役員の方々四十一名が出席されました。

徳島支部参与の藤本さんの司会で始まり、主催者代表として大西徳島支部長さんの挨拶がありました。来賓として同窓会長の中瀧会長が祝辞



を述べられ、麻布大学院の山本教授さん、同窓会参与の田邊さん、大西副校長からお祝いの挨拶がありました。

そのあと藤本同窓会副会長と友人の依田様から記念品と花束の贈呈が行われ、井口さんからお礼の言葉がありました。同窓会顧問の伊丹様からの乾杯の音頭により懇親会が行われ、和やかな雰囲気の中で歓談されました。三好市議会議員の宮内様から万歳三唱が行われ、無事お祝いすることができました。

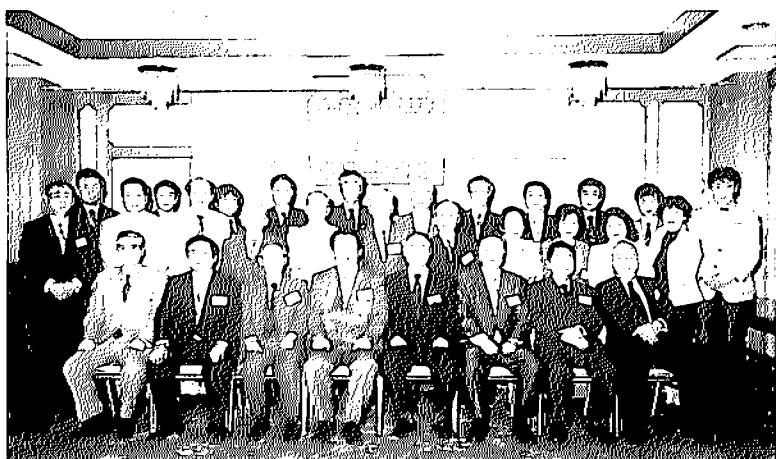
第十回三好高等学校同窓会近畿支部総会

近畿支部第十回総会が平成十九年五月二十日、大阪市北区の大阪弥生会館にて開催されました。同窓会本部からは中瀧会長さん、瀬部校長、大西副校長、久保教頭、事務局三名の計七名が参加しました。

井上事務局長さんの司会に始まり、岡田会長の挨拶がありました。議事において事業報告、収支決算報告が行われ、役員改選では岡田会長、井上事務局長さんが顧問に就任され、新会長に上浦文雄さん、新事務局長に宮内範博さんが就任されました。そして、上浦新会長さんが就任の挨拶を行い、新しい体制でのスタートとなりました。



新会長の上浦文雄さん



参加者による記念撮影

トとなりました。総会終了後、学校側から創立六十年記念ビデオの上映が行われました。その後、懇親会が行われ、故郷の数々の思い出話に花を添え、和やかな雰囲気の中で親交を深めました。

三好高校での三年間

生物資源類三年 松浦直美

月日が経つのは早いもので、三好高校生として門をくぐってから三年になろうとしています。現実感のないまま、来年の卒業式では自分達が主役になるということに戸惑いを覚えます。そして、卒業式より早く訪れる大学入試という人生の岐路に緊張と不安を感じます。しかしそんな時三好高校で過ごした日々を思い返します。長いようで短かった三年間で学んだ様々なことを思い出し自身を奮いたたせ、「やってやろうじゃないか」という気持ちを持ちます。私の進路は授業で培った技術が活かされるものではないけれど、多様な実習で養われた精神力はこれからの将来決して無駄になるものではないはずです。

卒業し、時間が経つにつれて得る

ものがあれば失うものもあり、困難な壁に突き当たることもあるだろうと思いますが、そんな時に三好高校で過ごした三年間を思い出し、忘れることなく人生の糧として頑張っていきたいと思えます。



山城中学校との交流学习

三好高校に入学して

ビジネス類三年 秋田 真

私は、三好高校に入学してから、資格取得や部活動に励んできました。目標は、一級三種目の取得でした。しかし、先輩が初級システムアドミニストレータという資格に合格したと先生から聞き、自分もこの資格を取りたいと思い、目標を初級システムアドミニストレータ合格を第一の目標に設定しました。

合格のため、一月から必死に勉強を始めました。放課後、合格のため毎日夜遅くまで残り、春休みも返上して朝から夕方まで頑張った結果、合格することができました。

午前の部は前日まで合格点を取ることができなかつたのですが、最後まであきらめずに、頑張ったおかげで合格点を取ることができました。

そして、目標を達成し、この経験

から、何事にも最後まであきらめないうという不屈の精神を得ることができました。社会に出てからもこのことを忘れずに頑張っていきたいです。



楓祭での餅つき

体育部の主な成績
平成19年度 徳島県高等学校総合体育大会

部	会場	期 日	成 績
男子ハンドボール	鳴門アミノバリューホール	6/2 ~4	予選トーナメント 対 鳴門高校 21 - 17 ○ 決勝リーグ(1勝2敗) 4位 対 城南高校 31 - 21 ○ 対 池田高校 25 - 40 × 対 徳島市立 26 - 30 ×
空 手 道	徳島中央武道館	6/3	男子個人組手 竹内 4回戦 藤本 1回戦 男子個人形 竹内 2回戦 女子個人組手 横関 優勝 井上 4回戦 山本 2回戦 男子団体組手 1回戦 女子団体組手 2回戦
バドミントン	阿南市スポーツ総合センター	6/1 ~2	団体 1回戦 对小松島 3 - 0 ○ 2回戦 対城東 0 - 3 × 個人戦 シングルス 2回戦 土井, 川原, 中川, 三谷, 岡本 個人戦 ダブルス 2回戦 谷, 三谷 3回戦 岡本, 川原
弓 道	鳴門総合運動公園弓道場	6/2	個人戦 予選敗退
レスリング部	穴吹高校体育館	6/2	個人戦 1, 2回戦敗退

平成19年度 四国高等学校選手権大会

部	会場	期 日	成 績
空 手 道	高松中央高校体育館	6/16	男子個人組手 竹内 1回戦 対明德義塾(花松) × 女子個人組手 井上 1回戦 対坂出(海) × 横関 1回戦 対坂出(鈴木) ○ 2回戦 対川之江(宇都宮) ×

平成19年度 全国高等学校総合体育大会

部	会場	期 日	成 績
空 手 道	佐賀県市村記念体育館	8/6 ~7	女子個人組手 横関 1回戦 対島根(森山) 4 - 2 ○ 2回戦 対山口(世尾) 3 - 5 ×

平成19年度文化部の主な成績

部	大会名	会場	期 日	成 績
情報処理部	県情報処理競技会	県総合教育センター	6/16	団体 1位 個人 1位 栗本尚卓 2位 秋田和真 3位 前田和美
農業クラブ	各種発表徳島県予選会	阿波市郷土成歴史館	7/24	プロジェクト発表 優秀 食料文化 優秀 文化 生活 優秀 意見発表 優秀 食料 環境 文化 生活 最優秀
農業クラブ	各種発表四国大会	ユーフラザウタブ	8/22 ~23	意見発表 優秀 文化 生活 優秀



高校総体空手競技 女子組手 優勝 横関 成美

高校再編と「新しい学校づくり」について経過報告

□ 高校再編の経過と同窓会の取組

高校教育改革は現在進行中であるが、この後を受けた次の改革として打ち出されたのが、今回の全県的な高校再編計画である。この計画は将来の生徒数の減少に備え、平成30年度を目標とした高校教育改革である。平成16年から審議をスタートさせ、平成17年2月に中間報告を公表、平成17年3月から4月にかけてパブリックコメントの実施。平成17年5月30日には、池田高校体育館で「再編のあり方についての地域説明会」が開催される。平成18年2月に再編検討委員会が最終報告書を提出、同3月に県教育委員会は、「高校再編方針」を策定した。

母校の存続に関わるこの高校再編問題は、同窓会としても創立60周年記念事業と同じく緊急の最重要問題と受け止め対応してきた。平成17年度からこれまで計6回の同窓会活性化委員会を開催し、この問題について協議し検討してきた。

この中で「三好高校の存続と発展を求める署名」活動を行うことを決議し、同窓生はじめ多くの方々の賛同を得、7,863名分の署名が集まり、平成19年1月16日県の方へ署名簿を提出した。同じ時期に三好市、東みよし町議会でも現在の三高校を存続させる請願が採択され、この活動の広がりや地域住民の意志が示された。この結果をもって、本年度は同窓会活性化委員会において、地域協議会の委員に、三好高校の学校関係者として田邊参与さんを委員として送ることが満場一致で承認され、瀬部校長とともに地域協議会に出席し議論を重ねているところである。

□ 高校再編方針について

県教育委員会の「高校再編方針」（抜粋）では、三好市・東みよし町地域について、次のように述べている。

三好市・東みよし町

- ① …高校が3校設置されているが、池田高校、辻高校については、地元からの進学希望が多いが、三好高校を含め、全体として生徒数の減少により小規模化が進むことが予測されている。
- ② 将来の学校数
3校から2校
- ③ 再編の姿
普通科教育については、池田高校の教育を基本に、職業教育等については、辻高校、三好高校の教育を基本に学科再編を行うとともに、地元から要望のある新学科の設置も含め、特色ある学校づくりを進めていくこととする。
そこで、辻高校の普通科に設置されている文理、人文教養、情報科学、体育健康、福祉の5コースと商業科を再編し、進学や就職など、多様な進路に応じた、特色ある教育を展開することとする。
また、農業科を再編し、林業に関する基礎知識はもとより、自然環境の保全や、地域産業と環境の関わりを考えていくため、森林環境科などを新設し、地域連携による特色ある環境教育を展開することとする。

この高校再編を具体的に進めていくため、保護者や学校関係者、学識経験者、地域代表等からなる地域協議会を設置し、新しい学校のあり方について議論していくこととしている。平成18年度から平成19年度までの2年間で全体計画を策定し、平成22年度までの3年間で学校間連携を進め、平成30年度までに段階的に再編整備を進めていくというスケジュールである。

□ 「新しい学校づくり」に関する協議について報告

・平成18年度

三好市・東みよし町においては、地域協議会の開催はなかった。実務者会議のみの開催で具体的な議論はなされなかった。

・平成19年度

これまで2回の「地域協議会」が開催された。委員として各代表15名が選任され、本校関係者として、同窓会参与の田邊忠司氏、校長の瀬部昌秀の2名が委員として意見を述べている。

第1回は、平成19年7月20日に辻高校で開催された。県教委の説明、三高校の説明等があり、「新しい学校教育について」協議が行われた。会議の口火を切って田邊委員から会の運営方針等について質問があり、その後三好地域にどのような教育が必要か、それぞれの立場から意見が出された。（この概要は、県教委のホームページに議事録が掲載されている）

第2回は、平成19年8月29日に辻高校で開催。三好地域に必要な教育について協議がなされた。この中で、三好高校・辻高校の教育に関する質問等が出され、最終的に両校の教育を土台にして、新しい学校のたたき台を事務局で提案することになった。また、委員が三好・

両校の現状を知る必要があるとして、地域協議会委員による両校の視察が、10月16日午後行われた。

***今後の予定**

- ・ 第3回地域協議会 11月1日(木)18:30~ 三好高校同窓会館
- ・ 第4回地域協議会 12月20日頃 *ほぼ骨子案決定
- ・ 第5回地域協議会 1月~2月 *最終案まとめ

□ 三好高校が目ざす「新しい学校」についての基本的な考え方(案案)

普通科を中心とする学科の再編は辻高校が担当し、農業に関するものは三好高校が担当して素案を検討している。

学校としては、新しい学校の姿をどう描き、どのように進めていくべきかの議論は始めたばかりである。これまでの三好高校の教育を土台とし、三好高校ならではの特色ある教育、地域に根ざした教育、新しい技術に果敢に挑戦する人材を育てる教育を多面的に考え、充実した教育が展開できるものとした。今後同窓会をはじめ多くの方々のご意見をいただき、さらに検討を重ねよりよいものにしていきたいと考えている。

○ 農業に関する学科等について

設置学科の案：2つの科を検討している。

(1)森林環境科(仮)

教育内容として①森と緑を守り育てる②木材等の利活用③きのこ・バイオマスの研究等の教育内容とし、広く森林や緑地の環境の保全と創造、緑と花、木材を生かした豊かな生活環境の創造、木材やきのこを中心としたバイオエネルギー等について学習する。

(2)食農科学科(仮)

教育内容として①野菜・果樹等の栽培(園芸中心)②牛・豚・鶏・ダチョウ等の飼育③食品製造・発酵(醸造)とバイオエタノールの研究等の教育内容とし、安全・安心な食料生産と食を育む農の学習を関連させながら農と食を総合的に学習する。

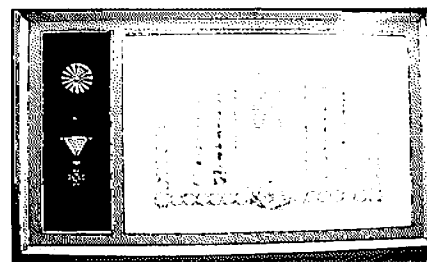
卒業生の功績

昭和25年度卒
農業科

河野 守 さん

瑞宝単光章 受賞

平成19年4月29日



河野さんは、昭和26年4月、徳島県警察官を拝命し徳島西警察署、徳島県警察本部等で勤務をされました。その間、主に刑事警察部門に所属し徳島県下の凶悪事件や重要事件の捜査活動に携わり解決に尽力され、その長年にわたる犯罪捜査に従事した警察業務の功績が認められた受賞になりました。

編集後記

同窓会だより「楓」第十号を、皆様のご協力に支えられ無事発刊することができました。

ご多忙の中、ご寄稿を頂きました皆様には心より厚くお礼を申し上げます。

今回の表紙は楓会館前の楓を載せました。楓会館建築の際に植採した楓も今年で十一年目となり在校生や同窓生を見守っております。

この広報誌「楓」も会員の皆様のご協力により十年目を迎えました。これからも会員皆様に親しまれるような紙面作りを目指したいと思っております。ご意見・ご感想や新しい情報などをお待ちしております。

最後になりましたが、会員各位の益々のご健勝とご多幸をお祈りすると共に、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。